

報道各社御中 ← 環境省広報室

< (公社) 日本動物園水族館協会共同発表 >

< 宮崎市記者クラブ、大島支庁記者クラブ同時配布 >

平成 30 年 10 月 22 日 (月)

トゲネズミ類生息域外保全事業について

環境省では、絶滅のおそれのある日本固有のトゲネズミ類を保全するため、(公社) 日本動物園水族館協会の協力を得て、平成 29 年から宮崎市フェニックス自然動物園、埼玉県こども動物自然公園、恩賜上野動物園の 3 施設で飼育・繁殖の技術開発を実施しています。

9 月 15 日に、環境省事業として初めて、宮崎市フェニックス自然動物園でアマミトゲネズミの出産が確認され、繁殖個体が巣より出てきたことを確認しましたので、お知らせします。

なお、本事業は、(独) 環境再生保全機構の環境研究総合推進費 4-1707「奄美・琉球における遺産価値の高い森林棲絶滅危惧種に対応する保全技術開発(代表機関: 宮崎大学)」と連携し、実施しています。

1 経緯

日本固有のネズミ類であるトゲネズミ類は、開発行為や外来生物等の影響によって絶滅のおそれが高まっており、生息環境の維持改善等の保全対策が重要となる一方で、生息域外保全の取組も必要と考えられています。

そこで、(公社) 日本動物園水族館協会と環境省は、平成 26 年に締結した「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」に基づき、飼育下繁殖技術等の科学的知見が不足している分類群としてトゲネズミ類を選定し、飼育・繁殖の技術開発を目指した科学的な知見の集積を当面の目的として生息域外保全に着手することとしました。

まず、トゲネズミ類 3 種(オキナワトゲネズミ、アマミトゲネズミ、トクノシマトゲネズミ)のうち、アマミトゲネズミを対象とした飼育・繁殖の技術開発を先行的に実施しています。

2 宮崎市フェニックス自然動物園での出産について

宮崎市フェニックス自然動物園で 4 頭のアマミトゲネズミの出産が確認されました。

なお、飼育・繁殖技術を確立させることを優先するため、公開の予定はありません。

i. 繁殖ペア個体

父親の園内番号: 6A

母親の園内番号: 10a

※いずれも 2017 年 1 月に奄美大島で捕獲した個体

ii. 出産確認日

2018年9月15日、3頭程度の産子の存在を確認。

ビデオにて2018年9月5日には♀の腹が大きく、7日夜には小さくなっているのを確認。5日～7日にかけて出産したと思われる。

9月15日の確認時、既に体毛が出ていたため、生後1週間程度と推定した。確認後は、メス親の育児放棄、食殺等を考慮し、仔の確認等はせずビデオのみの経過観察に留めた。

iii. 飼育経緯

2017年 1月11日 繁殖ペアは同園の屋内施設にて飼育を開始。

11月18日 同居を開始。

2018年 4月7日 新設の屋外飼育施設に移動。

7月28日 メス個体の膈開口を確認。

9月1日 体重測定時、149g。前回測定した8月25日の計測体重より10g増、前々回測定した8月18日からだと19g増であった。また、明瞭な腹部のふくらみと乳頭を確認し、妊娠の可能性を推定した。そのため、オスとは別居させ、経過を観察していた。

9月15日 3頭程度の産子の存在を目視で確認。

9月30日 巣より仔3頭が外に出てくる様子をビデオにて確認。

10月6日 巣を確認したところ、さらに仔1頭を確認。

10月20日 仔1頭の死亡を確認。

3 問い合わせ先

○生息域外保全事業全般について

環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 松木、大門

TEL：03-5521-8353

○（公社）日本動物園水族館協会の取組について

（公社）日本動物園水族館協会生物多様性委員会小型哺乳類事業調整者
伊東（狭山市立智光山公園こども動物園）

TEL：04-2953-9779

○個体の状況について

・宮崎市フェニックス自然動物園 飼育課 竹田、渡部

TEL：0985-39-1306

※個体の写真については、宮崎市フェニックス自然動物園までお問い合わせください。

・現在のアマミトゲネズミの飼育状況

施設名	飼育頭数			
	計	オス	メス	不明
宮崎市フェニックス自然動物園	15	5	7	3※
埼玉県こども動物自然公園	7	4	3	
恩賜上野動物園	6	3	3	
合計	28	12	13	3

※仔3頭について性別は分かっておりません。

【参考】

- ・アマミトゲネズミ（絶滅危惧 I B 類）

学 名：*Tokudaia osimensis*

特 徴：本種はオキナワトゲネズミやトクノシマトゲネズミよりやや小型である。背中は黒とオレンジ色を帯びた黄褐色、腹面は灰色がかった白色で、オキナワトゲネズミより体色の赤みが弱い。頭胴長89～160mm、尾長61～135mm、後足長24.5～34mm、頭蓋基底全長31.2～35.6mm。

生息環境：ウラジロガシやイジュなどを中心とした鬱閉した常緑広葉樹林、あるいはスダジイなどの常緑広葉樹林に生息し、その樹洞や根株に隠れる。

（レッドデータブック 2014 より抜粋）

環境省自然環境局野生生物課 希少種保全推進室 室 長：番匠 克二 (6677) 室長補佐：松木 崇司 (6471) 直通：03-5521-8353 代表：03-3581-3351
--